

平成26年 3 月 13 日

◎梶原委員長 ただいまから、総務委員会を開会いたします。

(10時 0 分開会)

本日の委員会は、昨日に引き続き「付託事件の審査等について」であります。

《監査委員事務局》

◎梶原委員長 それでは、監査委員事務局について行います。

事務局長の説明を求めます。

◎久保監査委員事務局長 それでは、まず平成26年度当初予算につきまして御説明を申し上げます。

お手元の資料No.②の議案説明書（当初予算）の662ページをお開きください。

まず、26年度監査委員事務局の予算総額は1億7,639万3,000円でございます。内訳につきましては、右の説明欄で御説明をさせていただきます。

1の監査委員運営費でございますが、監査委員報酬は非常勤監査委員の3名分の報酬でございます。次の特別職給与費は、常勤でございます代表監査委員の給料、職員手当、それと共済費を含めた人件費でございます。そして、事務費につきましては4名の監査委員の旅費等の活動経費でございます。2の人件費につきましては、事務局職員16名の人件費でございます。3の監査委員事務局運営費につきましては、健康診断委託料は10カ月雇用しております臨時職員の健康診断を行うための委託料でございます。次の全都道府県監査委員協議会連合会等負担金は、全国の監査委員の組織で事務局職員等の研修などを実施しております全都道府県監査委員協議会連合会への負担金8万円と、四国4県の監査委員で組織しております四国4県監査委員協議会への負担金1万円、合計9万円の負担金でございます。次の職員研修負担金は、事務局職員が専門的な研修を受けるための研修経費でございます。次の事務費につきましては、総務事務担当と工事監査を担当いたします非常勤職員2名の報酬と臨時職員の賃金のほか、監査業務を執行するための事務局職員の旅費や需用費などの事務局の活動経費となっております。

以上、前年度と比較いたしまして243万7,000円の減額となっております。減額の主な理由は、人件費でございますが、職員の新陳代謝などによるものでございます。なお、そのほか事務費につきましても、一定見直しを行い、節減に努めたところでございます。

以上で当初予算の説明を終わらせていただきます。

引き続きまして25年度補正予算につきまして御説明をさせていただきます。

お手元の資料、No.④の議案説明書、補正予算の336ページをお開きください。

監査委員運営費の176万円の減額補正でございます。監査委員の報酬の減額につきましては、2名の議会選出の監査委員につきましては特例条例によりまして4月から月額1,000円の減額、7月からさらに追加の1,000円の減額、月例1,000円の減額によるもので

ございまして、識見委員1名につきましても、7月から8.57%の一般職の1等級の減額率に合わせた減額をしているものでございます。2の特別職給料費の減額につきましては、代表監査委員の給料が同様に4月から5%の減額、さらに7月から10%の減額になったことに伴うものでございます。加えまして、事務費につきましても、監査委員の旅費等の活動経費の削減により減額をさせていただいたものでございます。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

◎梶原委員長 質疑を行います。

◎坂本（茂）委員 補正の関係で、事務費で監査委員の旅費について、削減に努めたというより、稼働実績が少なかったから減額になったんですか。その旅費の削減に努めるというのは、現実、実態があれば支払わなければならないわけですから、そういう実態がなかったという意味での削減なんですか。

◎久保監査委員事務局長 基本的には、旅費につきましては効率化なんかに努めております。行き方、コースなんかの検討しておりますことと、それから、減額補正のものでございますけれども、議会の選出の委員さんの人選が当初予算の後になりますので、一定、自宅からの旅費になりますから結構増減ございます。そのために、当初の一定の考え方で計算しておりますので、その分のどうしても差額が出るということもございまして。そういったことで、一定旅費等の不用になったものを減額したということもございまして、基本的にはできるだけ効率のいい旅程を検討して実施しているということもございまして。

◎梶原委員長 よろしいですか。

◎坂本（茂）委員 わかりました。

◎梶原委員長 それでは、質疑を終わります。

以上で監査委員事務局を終わります。

《人事委員会事務局》

◎梶原委員長 次に、人事委員会事務局について行います。

それでは、事務局長の説明を求めます。

◎福島人事委員会事務局長 人事委員会でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、平成26年度の当初予算につきまして御説明をいたします。

お手元の資料No.②、議案説明書（当初予算）の664ページをお願いいたします。

予算総額は、1億3,280万6,000円で、前年度より146万1,000円、1.1%の増となっております。財源内訳のうち、特定財源がございますが、これは私ども人事委員会が市町村や一部事務組合などから公平委員会の事務を受託しておりまして、それに伴います事務を処理するための財源でございます。

続きまして、666ページをお願いいたします。

歳出につきまして、説明欄に沿って御説明をいたします。

1の人事委員会運営費は、3名の委員の報酬と人事委員会の全国及び四国の組織に対します負担金や、こうした会に出席するための旅費でございます。2の人件費は、事務局職員13名の給与費でございます。3の人事委員会事務局運営費は、採用試験の実施や給与などの勧告、報告、職員の勤務条件に関する措置要求や不利益処分に係る不服申し立ての事務などを行うための経費でございます。以下、委託料が並んでおりますが、ほとんどが採用試験に関するものでございます。

まず、適性検査判定委託料は、職員採用におきます受験者の特性を見きわめますために実施をするものでございます。次の試験問題作成等委託料は、全国统一実施をしておらない試験、具体的には初級林業の専門試験でありますとか、身体障害者の選考試験などにつきまして、試験問題の別途提供を受けるための経費でございます。なお、通常の上級初級試験の試験問題等につきましては後ほど御説明をいたしますけれども、日本人事試験研究センターから提供を受けております。その下、点字版試験問題作成等委託料でございますが、これは目の不自由な方でも受験ができますよう、点字版の試験問題や試験案内等を作成するものでございます。次の採用試験事務電算処理委託料は、採用試験業務を速やかに処理をいたしますため、受験者の属人的情報でありますとか解答などをデータ処理するものでございます。一番下のパンフレット等作成委託料、これにつきましては新規事業でございますけれども、近年、採用予定者数が高どまりをいたします中で、応募者数につきましては減少傾向にございます。そのため、採用試験の実施を広く周知をいたしまして、より優秀な人材を確保することを目的としまして、新たにパンフレットの作成を行い、就職説明会や大学訪問の際に積極的に活用をしていきたいと考えております。

次のページをお願いいたします。

一番上のボイラー等検査委託料は、県の試験研究機関等で新たにボイラー等を新設いたします場合には、労働安全衛生関係法令等の規定によりまして人事委員会にその検査が義務づけられております。実際に、その検査をやっていただきますのは、専門機関になりますため、それを委託する経費でございます。

次の人事試験研究センター負担金は、先ほど少し触れましたけれども、行政職員や警察官などの採用試験の実施に当たりまして、試験問題の提供を受けております公益財団法人日本人事試験研究センターへの負担金でございます。

当初予算につきましては以上でございます。

続きまして、平成25年度補正予算につきまして御説明をいたします。

資料No.④の議案説明書、補正予算の337ページをお願いいたします。

人事委員会事務局運営費のうち、不用となることが見込まれます248万6,000円を減額しようとするものでございます。

次の338ページをお願いいたします。

減額の主な理由といたしましては、採用試験に係るものでございまして、上級試験及び身体障害者選考試験におきまして点字によります受験者が現実にはいられなかったこと、それと実際の受験者数が予定者数を下回ったことなどによりまして、点字版の試験問題の作成や電算処理のための委託料、これを減額するものでございます。このほか、事務費につきましては、旅費で不用額が生じたことや試験会場として県有施設などを使用したことなどによりまして、使用料及び賃借料が予定額を下回ったことなどによるものでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

◎梶原委員長 質疑を行います。

◎岡本委員 せっかくですから、2点ほどお聞きしたいがですけど、点字の試験問題の委託料ですけど、昨年はおらんかって減額補正したということですが、額がちょっと違いますね、昨年度の減額とことしの委託料の。この差というのはどういうところにあるんですか。

◎福島人事委員会事務局長 基本的には、点字試験の受験者がいない場合でも、試験案内の点字版の作成であるとか、あるいは採用試験が全部終わった場合に、過去問題、要するに例題としまして、公表用に問題を作成する必要があるとございます。それにも点字版の例題を作成をいたしますので、そういった経費が必要になるものでございます。

◎岡本委員 はい、わかりました。

それともう一点。このパンフレット等の作成委託料ですけども、これは大体どれぐらいつくるもんですか。大学等へ配付するというふうには説明があったところですけど。

◎福島人事委員会事務局長 現在のところ、900部ぐらいの作成を予定いたしております。各大学、これまで受験生がいられなかったところを中心に広く全国の大学に配付をいたしますとともに、就職説明会等が、東京でありますとか大阪でありますとか県外で行われます。そういった場合にも、持参をいたしまして、広くPRをしてまいりたいと考えております。

◎岡本委員 今、900部作成ですけど、大体全部使いますか。残ることはあるんですか。

◎福島人事委員会事務局長 今のところ、全てを配付予定といたしております。

◎岡本委員 はい、わかりました。

◎坂本（茂）委員 ちょっと関連で、このパンフレット等作成委託料というのは新規ですよ。今までは、つくってなかったということですか。

◎福島人事委員会事務局長 過去に作成をいたしておりましたけれども、予算が非常に厳しくなります中で、それと採用者数が非常に限定をされておったという状況の中で、10年ぐらい前に一旦取りやめをいたしております。その後は、ホームページ等を中心としたPRが主なものとなっておりますけれども、やはり最近になりまして説明会とかの実施が非

常に頻繁になってきておりまして、そういった際に何か高知県をアピールするものがないとなかなか集まっていた方にインパクトを与えることもできないというような声もございまして、そういった関係から今回新たに作成をしようとするものでございます。

◎坂本（茂）委員 聞いていると、財政的な部分もあるんでしょうけど、財政的に厳しいというても、50万円ですよ、いかに優秀な人材を確保するためにPRしていくかということ考えたときに、この額を節約せないかんかどうかという、いかなもんだったんかなあと。逆に、そのころはそういったことをしなくても、どんどん受験者がおったから、例えばよかったと。ところが、最近になって民間が好景気になって、そっちへ人材が行き出したんで、何とか県としても引きとめないかんから、いろいろ大学へのアプローチもせないかんから、この際つくったとかというふうにも聞こえるんですけども、実際はそういうことでよかったんですか。本当は、今までだって優秀な人材を確保せないかんから、アプローチの仕方としてはパンフレットとかをきちんとつくって、対応していく必要があったんじゃないですかね。

◎福島人事委員会事務局長 採用の募集に当たりましては、やはり広く周知をする必要性というのは常にあったかと私自身も思っております。ただ、そういった中で、どうしても採用予定者数が本当に近年高まってきておる。それによりまして、実質的な競争倍率というものが低減をしてきておる。こういった現実には直面をいたしますと、やはり今できることを積極的にやっていく必要があるというふうに考えております。

◎西森（潮）委員 県の職員の採用試験は県内でやる場合は、どこかの高校か何かでやっているんですか。

◎福島人事委員会事務局長 はい。県立の高校を利用することが多いという現状でございます。それと、実際の受験者数に応じまして、例えば県庁の正庁ホールでありますとか、規模によりまして臨機応変に対応をいたしております。

◎西森（潮）委員 本年はまだわかってない。

◎福島人事委員会事務局長 今、調整をしております、最終的には試験案内で発表させていただきますことになると思います。

◎米田委員 応募者数が減っちゃうとか、倍率が下がりゆうということで、実態はどんななんですか、この数年の状況は。

◎福島人事委員会事務局長 私ども人事委員会が実施をしております競争試験におきましては、今年度は採用予定者数202名に対しまして応募者数が2,114名でございました。実際に受験された方は1,656名で、これは前年度と比べますと応募者数につきましてはたまたまですが一致をいたしております、216名の当初採用予定者数に対しまして2,114名と全く同じでございます。応募者、実際に受験をされたのは1,640名ということでほぼ均衡しておりますが、その前の23年度は263名に対しまして2,399名の応募者数で、実際に受験を

されたのが1,880名ということでございます。やはり応募者数、受験者数とも減少傾向が少し見られる状況でございます。

◎米田委員 23年度は1,880名受けて263名の採用予定で、倍率からいうたら25年度も余り変わらんかね。

◎福島人事委員会事務局長 倍率的には、余り変わらない状況でございますけども、1つ言い抜かっておりましたが、23年度は公営企業局の看護師等の採用試験も競争試験でやっておりました関係で、少し採用予定者数、それと受験者数についても上乘せになっておる状況でございます。

◎米田委員 確かに公務員が厳しい大変なあれになってきちゅうというのものもあるかもしれませんが、全国的な状況と要因といますかね、それはどんなふうに捉えられているんですか。

◎福島人事委員会事務局長 全国的にも、採用予定者数は非常に伸びてきておる状況でございます。その要因といたしましては、一番大きいのは団塊の世代の方々が退職をされた結果、まとまった採用が必要になったということが1つあるかと思います。それと、やはり景気の動向というもので公務員の人気と民間の人気というものはどうしても対比、トレードオフの関係になると言われておりますので、そういったことも多少は影響しておるのではないかと考えております。

◎米田委員 応募者数が減っているのは、全国的に他県でもそんな状況にあるんですか。

◎福島人事委員会事務局長 先ほども申しましたように、民間市場と公務員市場という関係で大きく見た場合には少し減ってきておるところではないのかなと。そのために、各都道府県とも試験を実施する場所を例えば首都圏であるとかそういったところ以外にも広げていくとか、そういった動きもあるようにお聞きしておりますし、採用試験の内容自体につきましても、なかなか公務員試験というその特別の勉強をしないといけないというような固定観念のようなものがございまして、そういったハードルを和らげるための新たな採用試験のあり方というものも各県とも検討いたしておりますし、私どもも検討してこれまでも取り組んできておるところでございます。

◎梶原委員長 よろしいですかね。

◎米田委員 はい、わかりました。

◎梶原委員長 質疑を終わります。

以上で人事委員会事務局を終わります。

《議会事務局》

◎梶原委員長 次に、議会事務局について行います。

最初に、議案について事務局長の総括説明を求めます。

なお、局長に対する質疑は課長に対する質疑とあわせて行いたいと思いますので、御了

承願います。

◎**浜口議会事務局長** 議会事務局の浜口でございます。よろしくお願いいたします。

議会事務局は、議会が執行部と緊張ある関係を保持しながら監視機能や政策提言機能を十分に発揮をいたしまして、県民の皆様方の期待に応えられますよう、その補佐機関として役割を果たすよう努めております。このため、事務局も、開かれた県議会の一層の推進、監視機能の強化、政策提言機能の強化、以上3点を重点課題として位置づけまして、補佐機能の強化に努めてまいります。

当初予算及び25年度の2月補正予算の内容の詳細につきましては、総務課長のほうから説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

〈総務課〉

◎**岡林議会事務局総務課長** 平成26年度当初予算について御説明させていただきます。

No.②、平成26年2月高知県議会定例会議案説明書（当初予算）の5ページをごらんいただきたいと思います。

26年度議会予算は10億9,375万2,000円で、対前年度1,095万9,000円の減となっております。減の主な理由は、25年度は備品で委員会室のマイクシステムを更新いたしましたが、26年度はこのような大きな金額のものがないことによるものでございます。

右端の説明欄をごらんください。

まず、1の議会運営費につきましては、7億4,568万2,000円を計上いたしました。議員報酬等は前年度より174万1,000円の増額となっております。これは、議員共済会給付経理負担金率が上がったことによるものです。その下の健康診断委託料と政務活動費交付金につきましては、前年度とほぼ同額を計上いたしております。運営費につきましては、海外での記念式典などの予定があることから、旅費及び交際費で、前年度より236万9,000円の増額となっております。

次に、2の人件費の一般職給与費は事務局職員分でございます。

次に、3の事務局運営費につきましては、9,121万5,000円を計上いたしました。まず、委託料でございますが、2つ目の議事記録反訳等委託料は単価が安くなったことから25年度当初予算より70万6,000円減額となっております。下の端にあります広報紙配付等委託料は、ホームページ作成システムができることから、ホームページの作成を全て職員が行うようになるため、25年度より39万9,000円の減額となっております。そのほかの委託料は、多少の増減はございますが、昨年とほぼ同じ内容でございます。

6ページをごらんいただきたいと思います。

負担金につきましては、527万4,000円計上いたしました。上から4つ目の全国都道府県議会議長会分担金につきましては、分担金の負担率の見直しがあったため、前年度より20万5,000円の減額となっております。その他の負担金につきましては、昨年とほぼ同じ

内容でございます。

次の事務費でございますが、主な内容としましては、委員会記録作成のスピード化を図るため、音声を自動変換する音声認識システムを借り上げる経費に194万4,000円、また平成27年度の県議会議員改選に向けまして議員記章の購入費に96万9,000円を計上いたしております。

最後に、4の議会史編さん費でございますが、413万3,000円を計上しております。これは、25年度で第4巻が完成し、今後の作成計画について議会史編さん委員会で検討を行っていただいた結果、第5巻を26年度から28年度までの3年間で作成することとなり、その26年度経費でございます。

7ページをごらんいただきたいと思います。

27年度から28年度までの826万6,000円は、債務負担行為として計上いたしております。

続きまして、平成25年度2月補正予算について御説明いたします。

No.④の平成26年2月高知県議会定例会議案説明書（補正予算）の4ページをごらんいただきたいと思います。

総額で2,994万1,000円の減額補正を行うことにしております。

右端の説明欄をごらんください。

まず、議会運営費で2,536万9,000円減額いたしております。内訳としましては、議員欠員による減額及び議員辞職しました西岡議員に係る報酬、職員手当等1,404万5,000円と政務活動費交付金の763万5,000円でございます。また、運営費につきましては、旅費残額を368万9,000円減額いたしました。

次に、事務局運営費につきましては、457万2,000円減額いたしております。議事記録反訳等委託料は単価が下がったことから、また委員会調査等出張業務委託料は入札残を、事務費は育休非常勤職員の報酬を減額いたしました。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

◎梶原委員長 質疑を行います。

◎坂本（茂）委員 反訳等委託料の単価減というのは、やっぱりこのマイクを取り入れたことで判読しやすくなったとか、そういうことなんでしょうか。

◎西森議会事務局政策調査課長 平成25年度からこの委員会室のマイクを交換していただきましたことと、それにあわせて反訳システムを導入させていただいています。その音が非常によくなったということで、業者のほうの聞き取りの時間も削減できるということで、県内4業者に発注しておりますが、前年度から比べますと単価的に17%から30%の減になっております。

それともう一点、納品の時期が若干早まったという効果も出ております。

◎坂本（茂）委員 それに加えて、ことし自動音声読み取り装置ですか、それを予算化し

ているわけですが、それを今後加えたら、さらにまた単価が下がっていくということになりますか。

◎西森議会事務局政策調査課長 この反訳システムはリース契約で借り上げていますけれども、毎年2回、新たな単語登録みたいなことをしていただけますので、それでだんだん精度も上がってくるということになります。ちなみに、ことし2月に、どれぐらいの認識率かというのを業者に出してもらっていますが、4委員会を平均すると79.9%の認識率で、委員会ごとにそれぞれ認識率が違ってきますが、一番高いところで商工農林水産委員会の86.92%の認識率ということですが。

◎坂本（茂）委員 総務委員会は。

◎西森議会事務局政策調査課長 総務委員会は79.86%、約8割の認識率。基本的に執行部の説明の部分は割と認識率が高くて、どうしても質疑になりますと認識率が下がってくるというような現状もありますので、その辺の精度はまた高めていってスピード化も図っていききたいし、委託料もだんだん減していくのがいいのかなのかよくわかりませんが、民間業者の育成という観点もありますので、その辺調整しながらやっていきたいと思えます。

◎梶原委員長 しっかりと受けとめて、もっとはきはきとしゃべらないかんということですかね。

それでは、質疑を終わります。

以上で議会事務局を終わります。

お諮りいたします。

以上で議案についての審査は終了いたしました。他の委員会の採決が終わっていませんので、議案の採決はあす14日の午前11時から行いたいと思えます。おくれる場合は、また事務局から連絡をさせてもらいたいと思えます。

この予定で、御異議ございませんか。

(異議なし)

◎梶原委員長 御異議なしと認めます。

それでは、あす午前11時から委員会を開会いたしたいと思えます。

本日は以上で終了といたします。

(10時34分閉会)